

挨拶



新しい世紀を目前にして、私たちの同時代史には、巨大な歴史的変動が起こっています。

そうした状況下において、その起源を遡れば安政4（1857）年の番所調所に発する歴史と伝統を誇る東京外国語大学も、時代の大転換を目撃しつつ真剣な論議を積み重ね、大学改革へのステップを大きく踏み出してきています。

とくに本学の外国語学部は、1995年4月から従来の語学科制に替わって、より広域的な7つの課程制をとることになり、26の専攻語のなかから各自が志望する主専攻語を基礎にして、さらに専門性を明確にするための「言語・情報」「総合文化」「地域・国際」の3つの履修コースを設けました。教官組織も3大講座制（言語・情報講座、総合文化講座、地域・国際講座）へと大きく改組されました。

そして大学院重点化というわが国高等教育の方向を先取りし、人文・社会系の新制大学としては初の博士号（学術博士）を出した大学院（地域文化研究科博士前期・後期課程）を、さらにユニークな教育・研究の拠点にしてゆくつもりであります。

加えて本学には、卓越した研究拠点（COE）に選定された全国共同利用のアジア・アフリカ言語文化研究所、ユニークな方法論を開発して国費（文部省）留学生教育を中心に発展してきた留学生日本語教育センター、少数精鋭の部局である保健管理センターなどがありますので、それらが学部、大学院と有機的に一体となり、言語を核としたForeign Studies（外国学）の総合大学として、より一層の発展を計りつつあります。今後も「ポスト2000年の新しい東大像」を求めて、大学改革の推進に努めてゆくつもりであります。

本学には現在、約600人の留学生が世界各地から来ており、全学生に占める留学生比率は約14%と日本の国立大学のなかで最高ですが、このことは、本学が居ながらにして異文化交流の場になっていることを示しています。

こうして東京外国語大学は、国際接触の第一線を担うばかりか、真に国際的なリーダーたり得る人材を養成するための个性的かつ創造的な大学に生まれ変わりつつあるとあってよいでしょう。

ところで、本学では1997（平成9）年度から、懸案のキャンパス移転統合のための建設に着手し、順調に工事が進んで、いよいよ2000年（平成12年）の秋からは、新キャンパスで授業を行います。移転先である都下府中市の旧米軍キャンプ関東村の跡地は、東京近郊に残された数少ない広大な国有地スペースとして絶好の立地条件にあり、ここに現キャンパスの約3倍の敷地を確保しましたので、巨木の桜並木もある恵まれた自然環境を大切に、21世紀の日本を代表する、世界にも誇れる開かれた大学キャンパスを実現したいと思っております。

1999（平成11）年秋には、独立100周年（建学126年）の記念行事も終了しましたので、まさに世紀的な転換点に立つ東京外国語大学の新しい発展に向けて、私たちはさらに一層の力を傾けるつもりであります。

東京外国語大学長

中島 徳雄

（国際関係論）

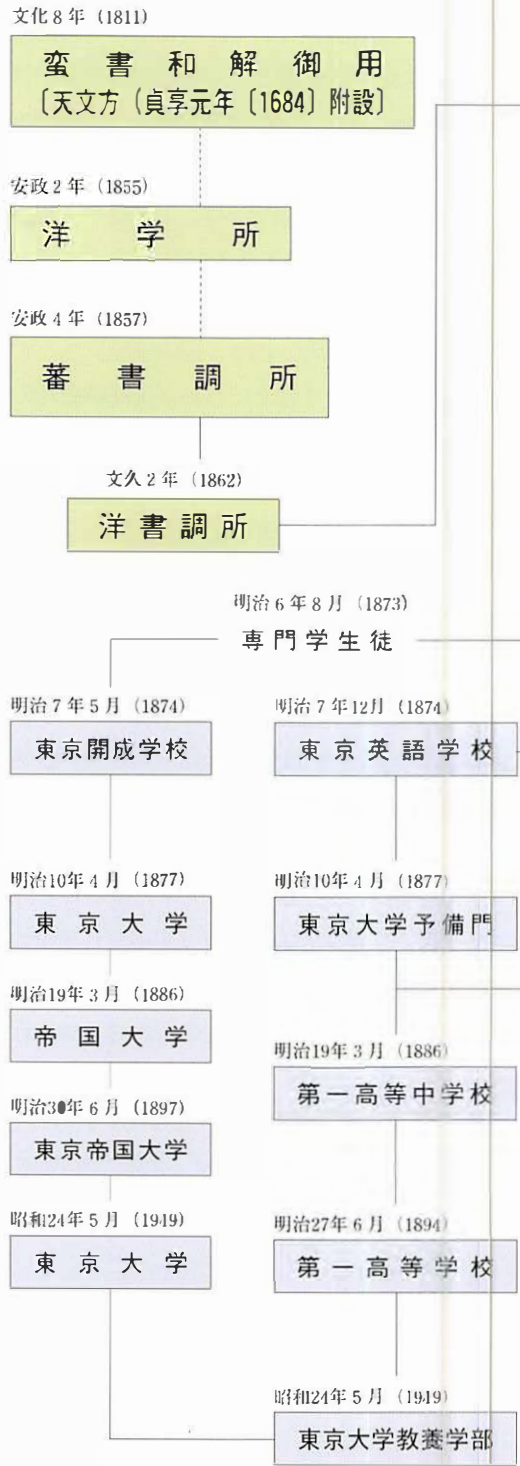
沿革

略図

概要

長い歴史と伝統を誇る本学は、「外国の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して外国に関する理解を深めることを目的とする」（学則第1条）「世界の言語・文化、地域社会及び国際関係につき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする」（大学院学則第2条）との理念のもとに、様々なレベルの国際接触の第一線を担い、外国研究の第一線に立つ多数の有能な卒業生を社会に送り出してきている。

現在、本学は、広域的な7課程において26の専攻語を教授している外国語学部、大学院地域文化研究科（博士前期・後期課程）、外国人留学生のための留学生日本語教育センター及び全国共同利用のアジア・アフリカ言語文化研究所及び保健管理センターの各部局から構成されており、外国の言語・文化・社会及び国際関係の教育・研究を専門とするForeign Studies（外国学）の総合大学として、日本の多くの大学のなかできわめてユニークな高い地位を占めている。



東京外国語大学

概要



TOKYO
UNIVERSITY
OF
FOREIGN
STUDIES

2000

目 次

挨拶	1
沿革	2
変遷	6
組織	10
歴代の校長・学長、名誉教授	12
役職員	13
職員	14
学部	15
大学院	15
学生数	16
外国人留学生	21
大学と社会の連携協力	22
卒業・修了	24
附属図書館	28
保健管理センター	30
国際交流会館	32
厚生施設	33
外国語学部附属教育・研究施設	35
留学生日本語教育センター	37
アジア・アフリカ言語文化研究所	39
情報処理センター	41
国際交流	42
大学の財政状況	47
土地・建物	49
新キャンパス	50
部局等の所在地・施設配置図	52
案内図	裏表紙ウラ



校章由来

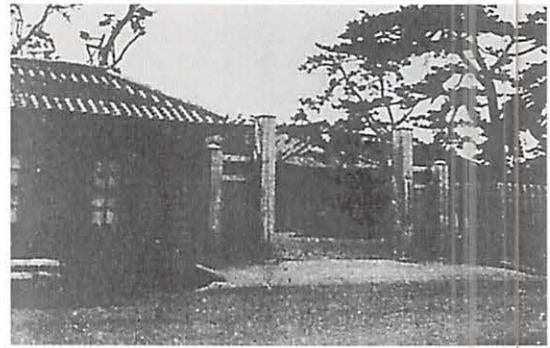
1897(明治30)年に東京高等商業学校附属外国語学校として創立された本学が、1899(明治32)年、東京外国語学校として独立する際に、神田乃武校長をはじめ各教官協議の結果、この徽章を制定した。炬火(たいまつ)は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字をとった。左右の羽翼については、独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれている。

沿革略史

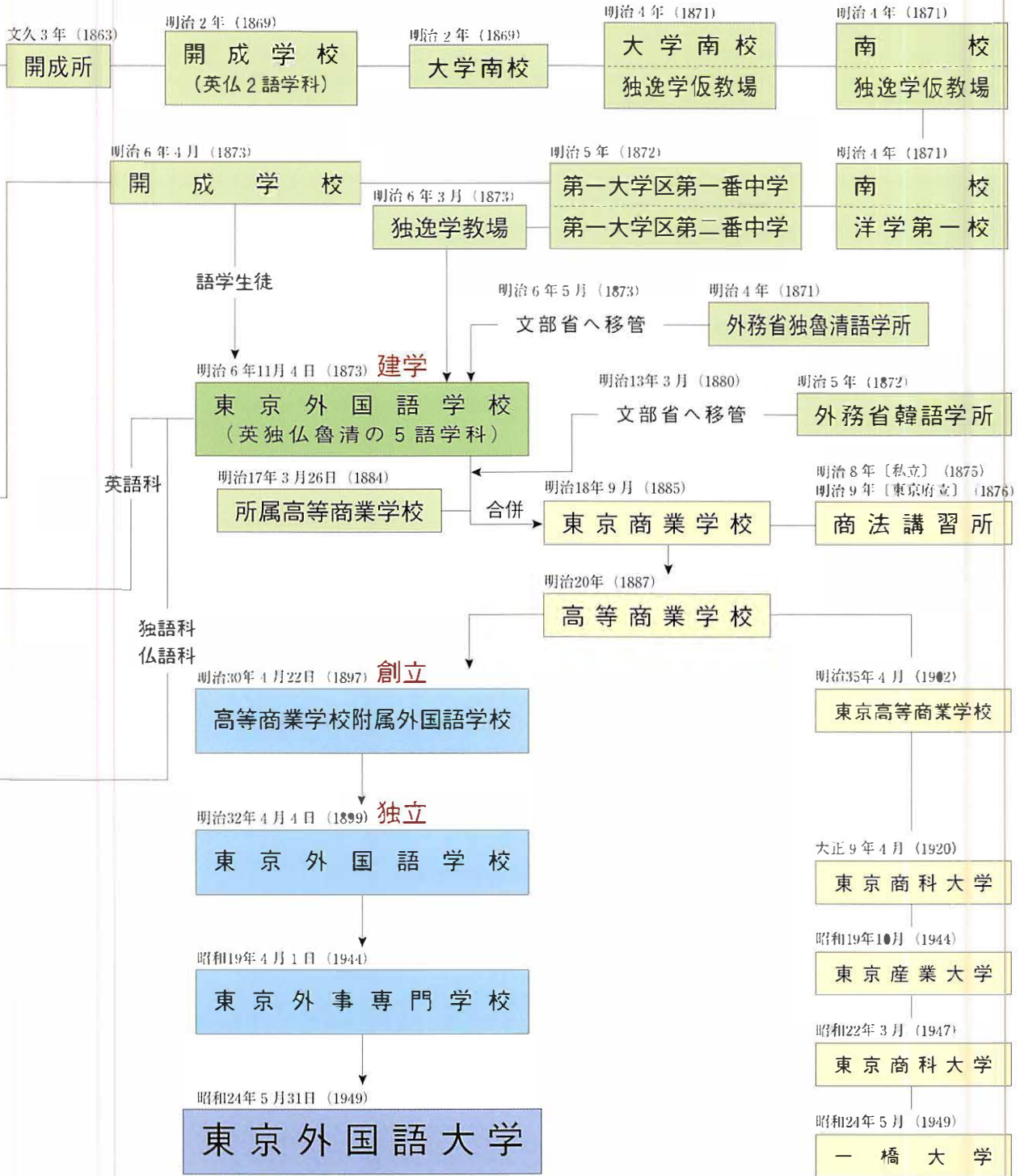
明治 6 (1873) 年11月4日	東京外国語学校(官立)、第一学区区東京第四大区二小区一ツ橋通町一番地に開設。5学科(英・仏・独・露・清語)を設置
7 (1874) 年12月24日	英語学科が東京英語学校設置に伴い同校に移行、よって4学科(仏・独・露・清語)となる
13 (1880) 年3月	朝鮮語学科設置
17 (1884) 年3月26日	東京外国語学校に所属高等商業学校を設置
18 (1885年) 8月14日	仏・独語学科が東京大学予備門に移行、よって3学科(露・清・朝鮮語)となる
9月22日	東京外国語学校及び同校所属高等商業学校と東京商業学校が東京商業学校として合併
29 (1896) 年1月	第九帝国議会において衆議院及び貴族院の両院が外国語学校の開設を建議
30 (1897) 年4月22日	高等商業学校に附属外国語学校附設
	7学科(英・仏・独・露・西・清・韓語)を設置。修業年限3年
32 (1899) 年4月4日	高等商業学校附属外国語学校が東京外国語学校(神田錦町3丁目14番地)と改称されるとともに、文部省直轄3官立専門学校の一つとして独立
	伊語学科を設置し、8学科となる
44 (1911) 年1月	新たに5学科(蒙古語、暹羅語、馬來語、ヒンドスタニー語、タミル語)を設置し13学科となる
	韓語学科を朝鮮語学科に改称

大正 2 (1913) 年2月20日	神田大火により校舎全焼
2月24日	文部省修文館のほか東京高等商業学校分校場の一部を借用し、授業開始
9月5日	本校敷地内に仮校舎を新築
	清語学科を支那語学科に改称
5 (1916) 年1月17日	葡語学科を設置し、14学科となる
8 (1919) 年9月4日	各学科の名称を部に改正、各部を文科、貿易科、拓殖科に分ける
10 (1921) 年4月10日	麹町区元衛町一番地の新校舎に移転
12 (1923) 年9月1日	関東大震災により附属建物を除き全焼
11月1日	牛込区市ヶ谷の陸軍士官学校の一部を借用し授業開始
13 (1924) 年3月3日	麹町区竹平町一番地の元文部省跡の新築仮校舎に移転

昭和 2 (1927) 年3月28日	朝鮮語部廃止により13語部となる。修業年限4年に改正
15 (1940) 年7月24日	滝野川区西ヶ原町の元海軍爆薬部跡に木造校舎を新築
16 (1941) 年5月21日	暹羅語部を泰語部に改称、暹羅語を泰語に改称
19 (1944) 年4月26日	東京外事専門学校と改称。修業年限3年に改正
	第一部(支那、蒙古、タイ、マライ、インド、ビルマ、フィリピン、イスパニヤ、ポルトガルの9科)及び第二部(ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、英米の5科)を設置
	別科として専修科(修業年限2年)及び速成科(修業年限1年)を設置
5月31日	麹町区竹平町一番地から書庫を除き滝野川区西ヶ原町の新築校舎に移転
20 (1945) 年4月13日	戦災により校舎等全焼
5月	戦災により校舎等全焼のため下谷区上野公園東京美術学校、図書館講習所、美術研究所内に移転。7月から授業開始
21 (1946) 年6月1日	板橋区上石神井1丁目216番地の智山中学校校舎の一部借用
7月22日	支那科を中国科に、タイ科をシャム科に改正し、支那語を中国語に、タイ語をシャム語に改称
8月1日	板橋区上石神井1丁目79番地の東京工業専門学校電波兵器技術専修学校跡を借用して移転し、9月から授業開始
8月16日	マライ科をインドネシア科に、フィリピン科をフィリッピン科に改称
24 (1949) 年3月23日	北区西ヶ原町の校地に戦災復旧木造校舎を新築
5月31日	国立学校設置法の施行により東京外国語大学設置(東京外事専門学校を包括して設置)。修業年限4年
6月1日	12学科(英米、フランス、ドイツ、ロシア、イタリア、イスパニヤ、ポルトガル、中国、蒙古、インド、インドネシア、シャム)を設置
8月30日	元ブラジル駐割特命全権大使澤田節蔵、初代学長に就任
26 (1951) 年3月31日	東京外事専門学校を廃止
29 (1954) 年7月5日	外国語学部海外事情研究所を開設
29 (1954) 年9月	留学生別科を設置。修業年限1年
30 (1955) 年12月16日	初めての選挙により教授岩崎民平が第二代学長に就任



明治6年開設の
東京外国語学校正門
『東京外国語大学史』
(1999年)より



神田区錦町3丁目14番地
に移転した東京外国語学
校の正門と校舎
「Per Angusta
Angusta 1913」より



- 31 (1956) 年 3 月 31 日 専攻科の設置。修業年限 1 年
専攻課程「英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語、イスパニヤ語、ポルトガル語、中国語、蒙古語、ウルドゥ語、ヒンディー語、インドネシア語、シヤム語」の13専攻
- 34 (1959) 年 7 月 1 日 外国語学部に語学研究所を開設
- 35 (1960) 年 3 月 留学生別科を廃止
- 35 (1960) 年 4 月 1 日 留学生課程を設置。修業年限 3 年
- 36 (1961) 年 4 月 1 日 学科を科に改称。イスパニヤ学科、ポルトガル学科、蒙古学科、インド学科、シヤム学科をそれぞれスペイン科、ポルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・パキスタン科、タイ科に改称。アラビア科設置。
- 12月16日 教授小川芳男が第三代学長に就任
- 39 (1964) 年 4 月 1 日 科を語学科に改称
タイ科をインドシナ語学科に改称
アジア・アフリカ言語文化研究所を設置
- 41 (1966) 年 4 月 1 日 大学院外国語学研究科修士課程を設置
- 43 (1968) 年 4 月 1 日 特設日本語学科を設置
- 45 (1970) 年 4 月 1 日 北区西ヶ原に附属日本語学校を設置
- 46 (1971) 年 3 月 府中市住吉町 5 丁目 10 番地 1 号の新校舎に附属日本語学校移転
4 月 1 日 教授鐘ヶ江信光が第四代学長に就任
田沢湖高原研修施設を開設
- 47 (1972) 年 3 月 留学生課程を廃止
- 50 (1975) 年 4 月 1 日 教授坂本是忠が第五代学長に就任
- 52 (1977) 年 4 月 1 日 朝鮮語学科を設置
大学院地域研究研究科修士課程を設置
- 55 (1980) 年 4 月 1 日 ヘルシア語学科を設置
- 56 (1981) 年 12 月 1 日 教授鈴木幸壽が第六代学長に就任
- 59 (1984) 年 4 月 1 日 インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称
- 60 (1985) 年 4 月 1 日 特設日本語学科を日本語学科に改組
国際交流会館開設
11月6日 評議会において府中市関東村跡地への移転について意志決定
- 60 (1985) 年 12 月 1 日 教授長幸男が第七代学長に就任
- 61 (1986) 年 4 月 1 日 附属日本語学校地に留学生教育教材開発センターを設置
-
- 平成 元 (1989) 年 9 月 1 日 教授原卓也が第八代学長に就任
- 3 (1991) 年 4 月 1 日 ロシア語学科をロシア・東欧語学科に改組
- 4 (1992) 年 4 月 1 日 大学院地域文化研究科博士課程（前期・後期）を設置、外国語学研究科修士課程及び地域研究研究科修士課程を地域文化研究科に統合
インドネシア・マレーシア語学科とインドシナ語学科を東南アジア語学科に改組
4月10日 附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学生日本語教育センターに改組
- 5 (1993) 年 4 月 1 日 アラビア語学科とヘルシア語学科を中東語学科に改組
6月24日 国の機関等移転推進連絡会議において大学の移転場所として東京都府中市旧関東村住宅跡地を決定
- 7 (1995) 年 4 月 1 日 外国語学部を 7 課程（欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本）3 大講座（言語・情報、総合文化、地域・国際）に改組
9月1日 教授中嶋嶺雄が第九代学長に就任
- 8 (1996) 年 4 月 1 日 大学院地域文化研究科に「国際文化講座」（博士講座）を設置
外国語学部に総合文化研究所を開設
8月21日 文部省の国立学校施設設計画調整会議において新キャンパス基本設計を了承
- 9 (1997) 年 4 月 1 日 アジア・アフリカ言語文化研究所に情報資源利用研究センターを設置
4月22日 創立百周年（建学124年）記念式典挙行
9月26日 府中新キャンパス起工式挙行
10月22日 情報処理センターを開設
- 10 (1998) 年 10 月 1 日 ISEP TUFS（東京外国語大学国際教育プログラム）開設
- 11 (1999) 年 4 月 1 日 大学院地域文化研究科に「国際協力講座」（博士講座）を設置
11月4日 独立100周年（建学126年）記念式典挙行
- 12 (2000) 年 4 月 1 日 副学長（2人）、外国語学部長が設置される

変遷

外国語学部

昭24. 5 設置	昭26. 4 改称	専攻語学	昭36. 4 改称	昭和39. 4 改称
英米学科	第一部	(英語)	英米科	英米語学科
フランス学科	第二部第一類	(フランス語)	フランス科	フランス語学科
イタリア学科	第二部第二類	(イタリア語)	イタリア科	イタリア語学科
ドイツ学科	第三部	(ドイツ語)	ドイツ科	ドイツ語学科
ロシア学科	第四部	(ロシア語)	ロシア科	ロシア語学科
イスパニヤ学科	第五部第一類	(イスパニヤ語)	スペイン科	スペイン語学科
ポルトガル学科	第五部第二類	(ポルトガル語)	ポルトガル・ブラジル科	ポルトガル・ブラジル語学科
中国学科	第六部第一類	(中国語)	中国科	中国語学科
蒙古学科	第六部第二類	(蒙古語)	モンゴル科	モンゴル語学科
インド学科	第七部第一類	(インド語)	インド・パキスタン科	インド・パキスタン語学科
インドネシア学	第七部第二類	(マライ語・オランダ語)	インドネシア科	インドネシア語学科
シャム学科	第七部第三類	(シャム語)	タイ科	インドシナ語学科
			昭36. 4 設置 アラビア科	アラビア語学科
	留学生別科	昭29. 9 設置 昭35. 3 廃止	留学生課程	昭35. 4 設置 昭47. 3 廃止
	専攻生	昭28. 4 設置 昭31. 3 廃止	外国語専攻科	昭31. 4 設置 昭41. 3 廃止

大学院研究科

外国語学研究科修士課程

昭41. 4 設置

- ゲルマン系言語専攻 (英語学、ドイツ語学)
- ロマンス系言語専攻 (フランス語学、イタリア語学、スペイン語学、ポルトガル語学)
- スラブ系言語専攻 (ロシア語学)
- アジア第一言語専攻 (中国語学、モンゴル語学)
- アジア第二言語専攻 (インド語学)
- アジア第三言語専攻 (インドネシア語学、タイ語学)
- 日本語学専攻 (日本語) 昭50. 4 設置

地域研究研究科修士課程

昭52. 4 設置

地域研究専攻

センター

附属日本語学校

昭45. 4 設置

留学生教育教材開発センター

昭61. 4 設置

役員

学 長

学 長 中嶋 嶺雄

副 学 長

副学長(併)
高橋作太郎
富盛 伸夫

評 議 員

学 長 中嶋 嶺雄
副学長 高橋作太郎
副学長 富盛 伸夫
附属図書館長 池端 雪浦
外国語学部長 沓掛 良彦
アジア・アフリカ言語文化
研究所長 石井 溥
大学院地域文化研究科長 西永 良成
留学生日本語教育センター長 姫野 昌子
保健管理センター所長 井上 哲文
アジア・アフリカ言語文化研究所
附属情報資源利用研究センター長 町田 和彦
外国語学部教授 敦賀陽一郎
大学院地域文化研究科教授 亀山 郁夫
アジア・アフリカ言語文化
研究所教授 相馬 保夫
留学生日本語教育センター教授 上村 忠男
宮崎 恒二
横田 淳子

外国語学部

外国語学部長(併) 沓掛 良彦

講座長

言語・情報講座 在間 進
総合文化講座 三枝 壽勝
地域・国際講座 立石 博高

課程・系列代表

欧米第一課程 馬場 彰
欧米第二課程 高橋 正明
ロシア・東欧課程 小原 雅俊
東アジア課程 運見 治雄
東南アジア課程 宇根 祥夫
南・西アジア課程 藤田 進
日本課程 鮎澤 孝子
人文系列 佐藤 公彦
社会系列 中野 敏男
人間・環境系列 小澤 周三

大学院地域文化研究科

地域文化研究科長 西永 良成

学内施設

視聴覚教育センター長 在間 進
海外事情研究所長 佐藤 公彦
語学研究所長 寺崎 英樹
総合文化研究所長 亀山 郁夫
情報処理センター長 芝野 耕司
国際交流会館長 高橋作太郎

事務局

事務局長 大坂紘一郎
総務課長 米原 壽男
会計課長 石井 利通
施設課長 上田喜一郎
研究協力課長 長岡 篤
企画広報室長 竹田 和彦

学務部

学務部長 小池紀久夫
教務課長 浅野 俊一
学生課長 西垣 寛和
入試課長 廣瀬 進
留学生課長 鈴木 文子

附属図書館

附属図書館長(併) 池端 雪浦
事務長 油谷 末弘

保健管理センター

保健管理センター所長(併) 井上 哲文

留学生日本語教育センター

留学生日本語教育センター長(併) 姫野 昌子

アジア・アフリカ言語文化研究所

アジア・アフリカ言語文化研究所長(併) 石井 溥

附属情報資源利用研究センター

情報資源利用研究センター長(併) 町田 和彦

東京外国語大学運営諮問会議委員 (University Advisers) (五十音順)

阿部 謹也(共立女子大学長)
井内慶次郎(日本視聴覚教育協会会長)
石井 米雄(神田外語大学長)
梅棹 忠夫(国立民族学博物館顧問)
江崎玲於奈(芝浦工業大学長)
木村 孟(大学評価・学位授与機構長)
グレゴリー・クラーク(多摩大学長)
小林陽太郎(富士ゼロックス株式会社取締役会長)
志村 尚子(津田塾大学長)
堤 清二(セゾン文化財団理事長)
ドナルド・キーン(コロンビア大学名誉教授)
本間 長世(成城学園長)

職員

(平成12年5月1日現在)

区 分		学長	教授	助教授	講師	助手	その他職員	計
定	員	1	135	100		9	125	370
定員内訳	外国語学部		99	61		2		162
	大学院(地域文化研究科)		2	2		1		5
	アジア・アフリカ言語文化研究所		19	18		6		43
	留学生日本語教育センター		14	18				32
	保健管理センター		1	1				2
		外国人教師		外国人研究員		計		
外国語学部		25		—		25		
アジア・アフリカ言語文化研究所		—		6		6		



創立60周年記念講堂のステンドグラス時計

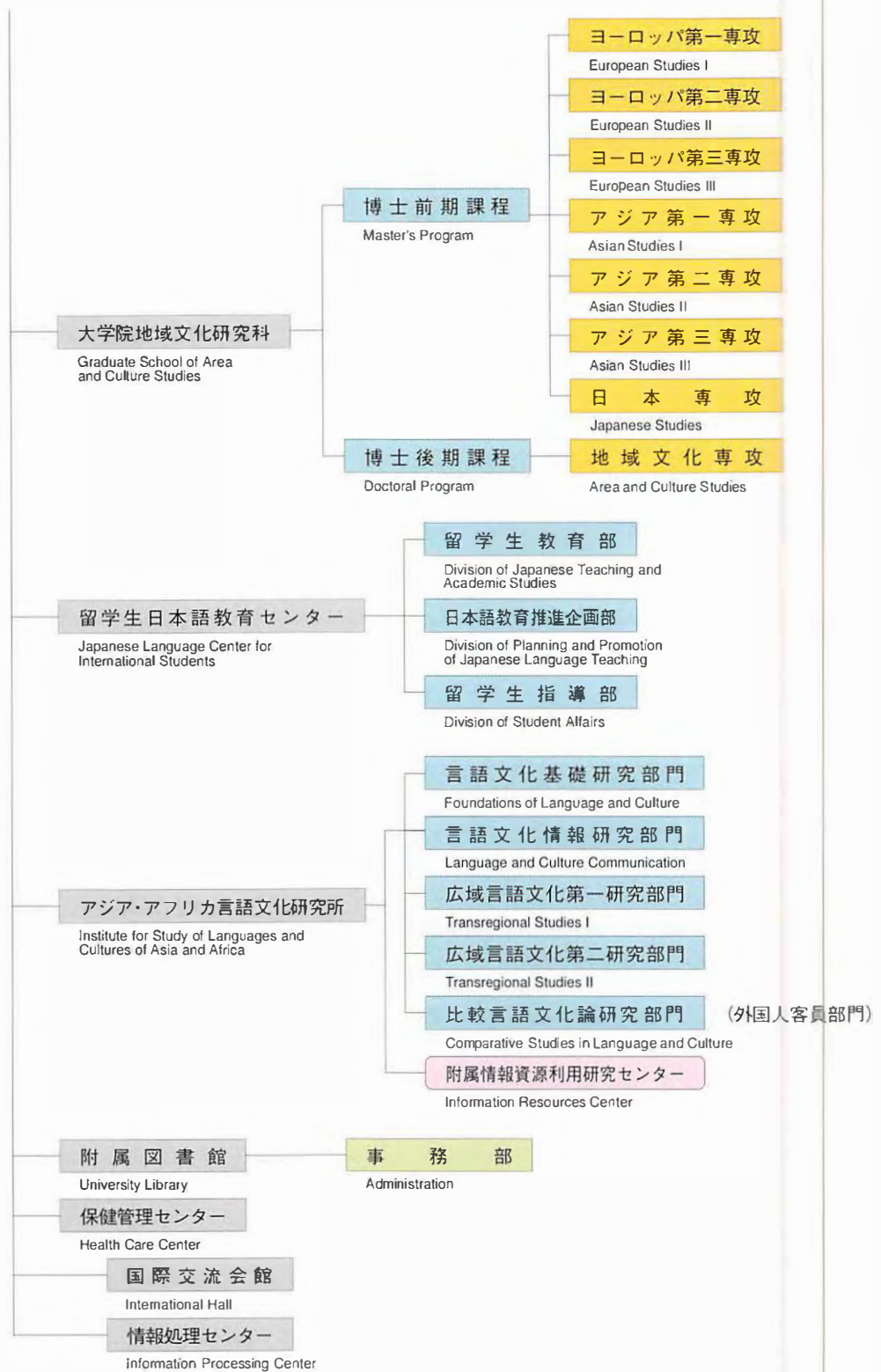
歴代の校長・学長

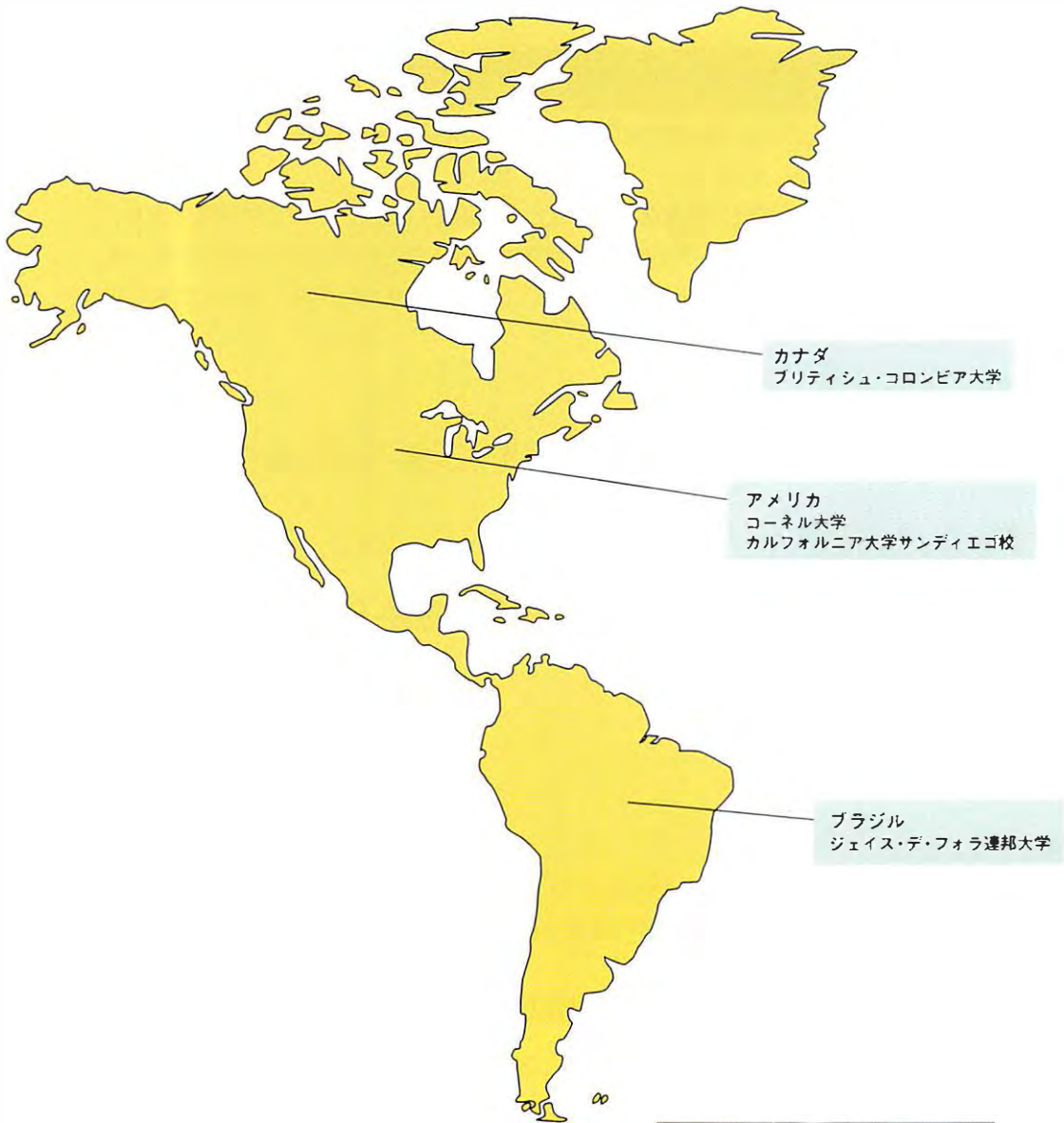
名誉教授

校 長		学 長	
〈東京外国語学校〉		〈東京外国語大学〉	
明治32年4月	神田 乃 武	昭和24年5月	井手 義 行 <small>(学長事務取扱)</small>
明治33年4月	上 田 万 年 <small>(校長事務取扱)</small>	昭和24年8月	澤 田 節 蔵
明治32年11月	高 楠 順次郎	昭和30年12月	岩 崎 民 平
明治41年7月	村 上 直次郎	昭和36年12月	小 川 芳 男
大正7年9月	茨 木 清次郎	昭和44年4月	鐘ヶ江 信 光 <small>(学長事務取扱)</small>
大正8年4月	長 屋 順 耳	昭和46年4月	鐘ヶ江 信 光
昭和7年8月	戸 沢 正 保	昭和50年4月	坂 本 是 忠
昭和13年12月	石 井 忠 純	昭和56年9月	鈴 木 幸 壽 <small>(学長事務取扱)</small>
昭和18年9月	大 畑 文 七	昭和56年12月	鈴 木 幸 壽
〈東京外事専門学校〉		昭和60年12月	長 幸 男
昭和19年4月	大 畑 文 七	平成元年9月	原 卓 也
昭和20年7月	井 手 義 行	平成7年9月	中 嶋 嶺 雄

名誉教授

松 本 尚 家	昭和47年5月	竹 林 滋	平成元年5月	奈 良 毅	平成7年6月
梶 木 隆 一	昭和48年5月	長 幸 男	平成元年10月	大 江 孝 男	〃
和久利 誓 一	昭和49年5月	篠 田 浩一郎	平成2年6月	原 卓 也	平成7年10月
鐘ヶ江 信 光	昭和50年4月	河 野 一 郎	平成3年5月	原 誠	平成8年5月
徳 永 康 元	〃	築 田 長 世	〃	河 島 英 昭	〃
徳 部 利 夫	昭和52年4月	齋 藤 次 郎	〃	金 丸 邦 三	〃
荒 井 正 道	昭和53年4月	志 村 正 雄	平成4年5月	山之内 靖	〃
伊 東 定 典	昭和56年5月	田 中 忠 治	平成5年5月	國 松 昭	〃
洪 澤 元 則	〃	牧 野 信 也	〃	松 田 徳一郎	〃
奈 良 文 夫	昭和57年4月	窪 田 富 男	〃	日 野 舜 也	〃
松 山 納	〃	岡 田 英 弘	〃	輿 水 優	平成9年5月
濱 口 乃二雄	昭和58年4月	岩 崎 力	平成6年5月	川 田 順 造	〃
小 野 協 一	昭和59年4月	千 野 榮 一	〃	坂 本 恭 章	〃
田 島 宏	〃	新 田 實	〃	東 信 行	平成10年5月
安 倍 北 夫	〃	若 林 俊 輔	〃	池 上 岑 夫	〃
鈴 木 幸 壽	昭和61年1月	山 口 昌 男	〃	高 橋 均	〃
北 村 甫	昭和61年4月	梅 田 博 之	〃	小 杉 商 一	〃
半 田 一 郎	昭和62年5月	中 村 平 次	〃	菅 野 裕 臣	〃
野 村 法	〃	小 浪 充	平成7年6月	縄 田 鉄 男	平成11年5月
黒 柳 恒 男	昭和63年5月	二 宮 宏 之	〃	中 野 曉 雄	〃
小 澤 重 男	平成元年5月	鈴 木 斌	〃		
尾 野 秀 一	〃	波 瀬 嘉 朗	〃		





国立台湾大学における
調印式 (1999.12.20)



陳維昭同学長、中嶋嶺雄学長
(中央左) (中央右)



国際交流の集い

国際教育プログラム

本学では、1998年10月から短期留学生のための国際教育プログラム（International Student Exchange Program of Tokyo University of Foreign Studies [ISEP TUFSS]）を開始した。

本プログラムは日本人学生、留学生相互の国際交流を推進し、さまざまな国の大学生どうしの知的交流を深め、国際性豊かな人材を養成することを目的に、本学の専門分野および副専攻語（日本語）の学習をすることで、高度な知識と国際的視野を習得させるものであり、留学生に対しては「日本で学ぶ」機会を与え、日本人学生に対してはいわば「学内留学」の機会を与えるものである。

対象学生

- (1) 東京外国語大学と学生交流に関して協定や合意書等を交わしている大学に在籍している正規の学生を対象とする。
- (2) 原則として勉学に支障のない英語力を持っていることを条件とする。
（日本語の学習経験は条件とはしないが、渡日前の日本語の学習を奨励している。）
- (3) 本学の学生については総合科目Ⅶとして開講されている専門科目の受講を認める。卒業に要する単位として換算されるかどうかは入学年次によって異なる。

留学生受入人数

約20名

プログラムの概要

本プログラムは、日本語、日本理解、国際理解からなる共通プログラムと留学生各自の専門分野に応じた専門プログラム（自主研究）とで構成されている。これらの具体的な履修計画は、指導教官の指導・助言の下に、留学生個人の研究課題や日本語能力等に応じて柔軟に編成される。

日本人学生の場合には、各自の専攻および興味に応じて科目を履修する。

単 位

所定の成績を修めた者には、東京外国語大学の規定に基づき単位が与えられる。

ただし、認定単位数及び学位に関係する単位に認定されるかどうかは、派遣大学の判断となる。



荒川区もちつき大会